

言葉の力

通称「ことちか」

令和7年1月17日発行
第2号
福島県教育庁義務教育課

言語能力の土台となる「語彙」

子どもたちの会話を耳にしたり、ノートに書かれた文章を目にしたりしたとき、「子どもたちが使う語彙を増やしたい。」と思ったことはありませんか。

語彙が増えると、言葉の理解が広がり、自分の思いや考えを的確に表現できるようになることはもちろん、相手の思いや考え、様々な物事の深い理解にもつながっていきます。

学習指導要領には「**語彙は、全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となる言語能力を支える重要な要素である。**」と書かれており、語彙指導の改善・充実は、全ての教科の学習とつながっているといっても過言ではありません。

語彙を豊かにしていくためには、学習指導要領で示された「語彙」についての指導事項（裏面参照）をよく確認し、系統性を捉えた上で指導していくことが最も重要です。さらに、語彙指導は、語句の量を増やすということだけではなく、語句のまとまりや関係、構成や変化について理解することの両面での指導が必要になります。



その2 子どもたちが使う語彙を豊かにしたい！

さて、語彙は話や文章の中で何度も使うことで、自分の言葉として身に付いていくものです。そのため、日常的な国語の授業の中でも語彙を豊かにする機会を捉えていきたいものです。今回は語彙を豊かにするために日常的な国語の授業で意識してほしい教師の働きかけの2つのポイントを紹介したいと思います。

【ポイント① 表現の違いを明らかにする】



感動しました。

心に響きました。



二人の表現の違いが分かりましたか？



授業の中で複数の子どもが同じテーマについて感想や意見を発表する機会があると思います。そのとき、表現の違いを取り上げ、それを全体に広げます。

何気なく聞き流してしまいそうですが、こういった働きかけは、使える語彙を増やす上で効果的です。聞いている学級の子どもたちは、発表者が表現しようとしている場面やテーマを共有しているので、言葉だけの違いではなく、思いや考えにも共感しながらその違いを捉えることができます。



ぼくはCさんと同じ意見です。

同じでも自分の言葉で表現してみましょう。



また、この場面のように、「同じ」で終わらせず、自分の言葉で表現させることは大切にしたいことのひとつです。子どもたちはそれぞれに違った表現の仕方をします。微妙な違いでも、その表現の違いを捉え広げることは、子どもたちにとって様々な表現に触れる機会となります。このような働きかけは、子どもたちが自分の言葉を見つめ直すきっかけにもなります。

【ポイント② 言葉に関する掲示とつなげる】

右のような掲示がある教室をよく見かけます。

このような掲示は語彙を増やすために効果的であると思いますが、さらに効果的に活用するためには次のような働きかけが大切です。

な 待 満 機 さ 気
 つ ち 足 嫌 わ 分
 か 遠 が や が
 し し い い か い
 い い い い い い
 〔気持ちを表す言葉〕



風がさわやかでした。

掲示にある「さわやか」を使っていますね。



このように、掲示に書かれている言葉を使った子どもの発言を丁寧に取り上げます。そうすることで、学級の子どもたちも掲示に目が向くようになり、掲示された言葉を使って表現の仕方を工夫しようという意識の高まりにもつながります。もし、子どもが無意識に使ったとしてもしっかり取り上げてほしいと思います。

「掲示して終わり」とせず、掲示の内容を頭に入れ、効果的に活用しましょう。

今回紹介したポイントで大切なことは、「**子どもが使う言葉に敏感になる**」ということです。

働きかけは、他にもたくさんあると思いますが、子どもが使う言葉に敏感になり、授業の中や日常生活の中でも表現を広げるチャンスを捉えながら、子どもの使う語彙が豊かになるよう工夫して取り組んでみましょう。

【参考】「語彙」に関する指導事項（小・中学校学習指導要領）

〔知識及び技能〕

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

	(小)第1学年及び第2学年	(小)第3学年及び第4学年	(小)第5学年及び第6学年
	(1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
語彙	オ 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。	オ 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。	オ 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。

	(中)第1学年	(中)第2学年	(中)第3学年
	(1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
語彙	ウ 事象や行為、心情を表す語句の量を増すと同時に、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	エ 抽象的な概念を表す語句の量を増すと同時に、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	イ 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用語や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。

(『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説国語編』『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説国語編』より)

※ 令和7年2月18日(火)の第21回「授業の魅力化応援オンライン研修【国語科】」では、「授業づくりの本質は教材研究にあり!～授業が楽しくなる教材研究のヒント～」と題して、「教材研究」をテーマにした研修を行います。興味のある方は、ぜひ御参加ください。詳しくは義務教育課ホームページへ

